

近畿中央胸部疾患センターに入院中の患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行いますが、患者さんの個人情報については配慮しながら行います。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] がん患者における緩和ケア介入時の錐体外路症状の頻度を調査する多施設観察研究

※本研究は当院を含め全国7施設で行います。

※錐体外路症状は、体内のドーパミンと呼ばれる物質が不足して起こるパーキンソン病のような症状（動作が遅くなった、声が小さくなった、表情が少なくなった、歩き方がふらふらする、歩幅がせまくなった、一歩目が出ない、手が震える、止まれず走り出すことがある、手足が固い、など）の総称です。この症状が薬の副作用で出現することがあり、しかも錐体外路症状の程度やがんの病状によっては、錐体外路症状であると気づかれないままであることもあります。

[研究の目的] 緩和ケアチームが治療に参加する際の、錐体外路症状の頻度を調べることが目的です。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2016年1月25日から2016年2月24日のうちどこかの1ヶ月に当院に入院中のがん患者さんで緩和ケアチームが治療に参加する患者さん。

全国で7施設で600例の登録を行います

●利用するカルテ情報

年齢などの背景情報や臨床検査結果、症状、診察所見などの診療データを利用させていただきます。この研究のために日常臨床の範囲を超えた検査などは行いません。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解頂けない場合は、以下にご連絡ください。なお、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。なお、試験終了後のご連絡には申し訳ありませんが対応できません。

[問い合わせ先]

大阪府堺市北区長曽根町1180番地

近畿中央胸部疾患センター 心療内科/支持・緩和療法チーム 医師 松田能宣

電話 072-252-3021 FAX 072-251-1372